

平成29年度

# 町政執行方針

平成29年3月

浦 白 町

## はじめに

平成29年第1回浦臼町議会定例会に当たり、新年度の町政に望む基本的な考え方と重点的な施策について申し上げ、議員の皆様並びに町民の皆様にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私は、昨年4月の町長選挙において、2期目の町政を担うこととなってから、はやくも1年になろうとしています。

この間、私は1期目に引き続き、町の活性化と、誰もがいつまでも住みやすい安心のまちづくりに向けて、様々な施策に取り組んでまいりました。

人口が2,000人を切り、過疎化が一段と進んでいますが、山積する課題一つ一つをしっかりと考え、町民の声を聞き、議会との議論を踏まえながら、将来に繋げる、誰もが住んで良かったと思えるまちづくりに挑んでいきます。

まちづくりの基本である、浦臼町総合振興計画（チャレンジプラン）と浦臼町総合戦略が平成27年度より同時スタートしていますが、この2つの計画の整合性を保ちつつ、計画を推進する中で、時には柔軟な発想で、タイムリーな事業にもスピード感を持ち挑戦し

ていく考えであります。

北海道における都市への人口流出が日本中で一番多くなり、人口の一極集中が益々進む中、地方自治体の政策にも、先行き不透明感が漂いはじめています。

この厳しい状況を乗り越えるには、開拓に汗した先人達のご労苦に感謝しつつ、全町民の英知を結集して、町民みんなで気持ちを前面に出して、ふるさと再生に向かって進むしかありません。

平成29年度は将来に活かすまちづくりの土台となる、3つの大きな事業に取り組めます。

1つ目は、子育て支援の中核施設『認定こども園』の建設です。

2つ目は、町民の安全安心を高める防災倉庫の建設です。

3つ目は、住宅不足解消のため、『民間賃貸住宅建設補助事業』です。

これら3つの事業をしっかりと着実に進めていくことで、町民一人一人が誇りの持てる、夢のあるまちになると確信しています。

これこそが今の私に課せられた使命だと思い、取り組んでまいります。

以下、主要施策について申し上げます。

## 《子ども子育て支援》

1点目は子ども子育て支援についてであります。

少子化の進行によって、ここ数年生まれてくる子どもの数は一桁となる中、子どもたちを地域全体で優しく支えあうという基本理念として『浦臼町子ども子育て支援計画』に基づき、質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的環境を提供し、子育て支援の充実と子育てしやすいまちづくりを目指してまいります。

社会全体で育てる環境が求められている現在、その中核的施設として今年度『認定こども園』建設に着手してまいります。

働きながら子育てできる環境をより充実して、施設整備後の運営については、豊富なノウハウを持つ社会福祉法人揺籃会にお願いし、平成30年4月の開園を目指してまいります。この施設完成によって、現在広域保育を利用されている皆様の負担軽減が図られるなど、浦臼町の子育て環境を整備してまいります。

また、他の軽減策については、未就学児童への助成事業はじめ、育児用品への助成・出産祝金事業も継続してまいります。

更には、学校給食費の全額助成、高校生の就学支援事業、18才までの医療費無償化なども継続し、保護者の負担を少しでも軽減しな

がら、子育てに優しい町づくりに努めてまいります。

### 《安全安心のまちづくり》

2点目は、安全安心のまちづくりについてであります。

一つは、防災減災対策であります。

昨年8月には、3つの台風が北海道を襲い、これまでに無い甚大な被害が発生しています。

本町においても、内水による田畑の冠水や用水路が溢れるなど等の被害が発生いたしました。

このことを踏まえ、より町民の安全安心を高めていくために、今年度『防災倉庫』を除雪センター敷地に建設し、併せて、備品として排水ポンプや発電機を購入し、更には、中州堤防に夏期だけの常設管を設置して、豪雨災害への迅速な対応と、少しでも被害を減らす取組を進めてまいります。

また、火災時の消火活動に必要な水の確保について、今年度は晩生内地域に3基の消火栓を整備し、安全策を強化してまいります。

2つめは住宅環境整備であります。

誰もが、何時までもこの町で暮らして行くには、何よりも住む環境の充実が必要であります。

このため、慢性的な中・高所得者の住宅不足の解消に向けて、今年度は新たに民間活力を利用した『民間賃貸住宅建設補助事業』を実施し、様々な希望者に住んでもらえる住環境を整備し、定住移住を促進してまいります。

また、建設後40年を経過し、老朽化が著しい公営住宅『ひばり団地』については、今後10年間の立替計画を策定して、現居住者を優先に住環境向上を目指してまいります。

また、現在実施している新築住宅建設や中古住宅取得助成、住宅リフォーム、浄化槽設置助成事業などは継続して取り組んでまいります。また、高齢者による交通事故が全国的に大きな問題になっている中、65歳以上を対象にした、『自動車免許証自主返納支援制度』を実施し、高齢者を交通事故の加害者にさせない取組も推進してまいります。

### 《生きがいある高齢者福祉と住民の健康づくり推進》

3点目は生きがいある高齢者福祉と住民の健康づくり推進についてであります。

著しく高齢社会が進展する中、高齢者の方々が、何時までも住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、浦臼町高齢者保健福祉計画

に基づいて、『地域包括ケアシステム』の構築を推進すると共に、町社会福祉協議会や他の社会福祉法人などの関係機関と連携し、相談や見守り体制などの生活支援サービス体制整備強化に努めます。

更に、今年度は認知症の方やその家族に対し、『認知症初期集中支援チーム』を設置し、『ゆうゆう健診』の実施と共に早期診断・早期対応に向けた支援対策に取り組んでまいります。

また、人口減少が進む中、各種介護サービス、特にデイサービスを受ける方々が減ってきており、運営を難しくしていることがありますので、この事業への支援を強化し、対象者が安心して利用できる体制維持に努めてまいります。

また、高齢者の皆さんが、その能力や経験を活かし積極的に町内活動や社会参加できるように『高齢者大学みどり学園』や『町内会』などへの支援を拡充してまいります。

その他、各種健診費用の自己負担の軽減を継続実施し、疾病の早期発見早期治療に努め、若いときからの健康づくりを推進すると共に、高齢者の健康長寿を後押ししていきます。

不妊治療の助成や妊婦から高齢者までの予防接種への助成、育児不安の軽減や虐待予防、健やかな子どもの成長発達を促すための乳

幼児健診、相談の充実など、出産から子育てに渡る、切れ目のない支援を進めてまいります。

### 《産業振興》

4点目は産業振興についてであります。

町の基幹産業であります農業については、農家の高齢化や後継者不足、担い手不足など依然として厳しい環境にありますが、その解決が難しい状況にもあります。

昨年、天候不順などにより、水稻は契約出荷数量の98.3%となり、その他多くの作物が平年収量に届かず、生産者の皆さんには、あまり良い年では無かったと思います。

一方、近年の課題であるTPP問題においては、アメリカ大統領の交代によって、思いもかけず空中分解の様相ですが、今後2国間協議において、厳しい要求が懸念され、注視が必要であります。

国の矢継ぎ早な農業改革に対しては、農協など関係団体と連携しながら、将来に希望の持てる営農ができるよう、必要な策を講じてまいります。

農業基盤整備の柱である道営土地改良事業については、今年度も予算額が満額とならず、当初計画の80%程度にとどまり、事業計

画の遅れが懸念されるところでございますが、引き続き支援してまいります。

ICTを活用したスマート農業につきましては、超省力化、高品質生産を実現する新たな農業の研究などが行われておりますが、この地域の現状をよく見極めながら、農協や近隣町とも連携して、遅れることなく取組を進めてまいります。

新規就農者担い手対策については、農地中間管理機構の指導による、農地活用や新規就農者などへの育成に対する、サポート体制を推進してまいります。

また、昨年設立された浦臼町クリーン米生産組合とJAピンネ水稻直幡研究会の取組に対し、温湯消毒器導入助成、直播機械購入費助成事業を実施してまいります。

商工業の振興では、昨年から始めた新たな中小企業支援事業を継続しながら、併せて、今年度は企業誘致促進のための具体的な支援策も打ち出して、積極的な企業誘致を進めてまいります。

人口流出が激しく進み、町内購買力が著しく低下しています。

このため、地域外への消費流出を少しでも抑えるために、プレミアム付商品券の発行を継続支援することにより、地域経済波及に繋

げてまいります。

また、観光の拠点である鶴沼エリアについては、町全体の年次整備計画の必要もあることから、今年度は町の産業・観光振興のランドデザイン全体構想のあり方を、年次に沿って再整備を見据えながら、産業観光による交流人口を増やし、町の振興活性化に結び付けていきたいとするものです。今年度はこの計画づくりに着手してまいります。

昨年好評だった『うらうすともだちマラニック事業』についても、町外からの多くの参加が見込めるなど、今年度もまちのPR事業として支援してまいります。

また、町の広報は町を知ってもらうための最大の手段であることから、町のホームページをリニューアルして、観光や町の魅力情報発信の充実に努めます。

さらに、地域おこし協力隊の活用や、東京都内での故郷PRなど、広報事業も積極的に参加してまいります。

結びに

以上、平成29年度の町政執行に臨む、所信の一端を述べさせていただきます。

人口減少、少子高齢化が加速的に進展する中、浦臼町の進む道も決して平坦ではありません。

人口減少への対応、産業の振興、防災対策・住宅環境整備など課題は山積しております。しかしながら、行政、企業、町民等の様々な枠を超えて、それぞれが知恵を出し合い、創意工夫を持って、難題解決に取り組むことが、わが町浦臼町の地方創生の出発点であり、活力あるふるさと再生へと繋がっていくものと考えております。

私は、今一度初心に立ち返り、先人から受け継いだ、みどり豊かな自然の大地を、しっかりと次の世代に引き継いでいくため、職員一丸となって、まちづくりの先頭に立って最大の努力を傾注してまいりますので、議員の皆様、町民の皆様により一層のご理解・ご支援をお願い申し上げます、町政執行方針といたします。